



15世紀初頭、琉球は按司と呼ばれる豪族が群雄割拠した戦国時代。3つの国に分かれていた琉球を統一したのは、そのいずれの王でもなく、「佐敷の小按司」と呼ばれた青年でした。その名は尚巴志。

当時を描いた組踊が大城区に受け継がれています。組踊「大城大軍」は、島添大里按司に敗れた大城按司の子・若按司が、佐敷按司や家臣である外間子の支えを得て、島添大里按司を倒す仇討ち物語です。諸説ありますが、ここで登場する佐敷按司が、戦国の琉球を統一した尚巴志、またはその父・思紹と考えられています。

琉球開闢神話に始まり、尚巴志のふるさとでもある南城市はまさに、時代の転換点において重要な役割を担ってきたと言えます。

また、戦国の舞台となっているのが、南城市の名称の由来にもなっている「城＝グスク」です。尚巴志をはじめ、按司たちが躍動した数々のグスクを擁する南城市は、歴史ロマンをリアルに感じられる場所となっています。

組踊・・・唱え、音楽、踊りによって構成される歌舞劇で、2010年にはユネスコの無形文化遺産に登録された沖縄の代表的な伝統芸能です。南城市にも、地域で受け継がれた組踊が各地に残されています。

しょう は し グスク

尚巴志と城

三山に分かれていた琉球を統一したのは、南城市佐敷の地で生まれ育ったひとりの青年だった。

しましーおおざと
島添大里城跡

「島添」とは「島々を支配する」という意味を持ち、大里・佐敷・知念・玉城地域を支配下に置き、中国の明王朝とも盛んに貿易を行っていたと言われるほど、島添大里按司は当時大きな勢力を誇っていた。後に琉球を統一した尚巴志(しょうはし)は1402年にここを攻め落とし、三山統一の足がかりとした。

One of Nanjo's most famous citizens was Sho Hashi. Born in Sashiki, Nanjo, it was he who unified the Ryukyu Islands at the beginning of the 15th century. Before that, Ryukyu consisted of three separate countries. This story is told in the classical Ryukyuan music and dance drama 'Ufugushiku-tegun', traditionally performed in Oshiro Ward.

Going back in time, there was conflict between various tribes and factions and this can be seen in the various gusuku (castles) dotted around the area, places where heroes such as Sho Hashi lived and worked. In fact, the name, Nanjo means "Southern Castle."



©和々



尚巴志の生涯

1372年	現在の南城市佐敷に生まれる
1402年	父・思紹より佐敷按司を受け継ぐ 島添大里按司を討つ
1406年	中山王・武寧を滅ぼす
1416年	北山王・攀安知を滅ぼす
1422年	尚巴志が中山王に即位
1429年	南山王・他魯毎を滅ぼす
1439年	逝去(67歳)

尚巴志は内政においては鉄の農具を普及させ、外交においてはアジア各国との貿易も推進しました。首里を王都に定め、以後450年続く琉球王国の礎を築きました。本市では、地域の英雄である尚巴志のスピリットを子どもたちに伝えると同時に、尚巴志の名を冠したマラソン大会を主催するなど、歴史・文化遺産を地域資源として積極的に活用する取り組みを進めています。



尚巴志ハーフマラソン in 南城市

本市の起伏に富んだ地形と絶景をコースに含むハーフマラソン大会。「王の見た絶景が待っている」とランナーの挑戦心を煽る。2023年には20回目を迎え、全国的にも人気の高い大会に成長した。



尚巴志の想いを伝える

市内の小学4年生を対象に、尚巴志の半生を描いた紙芝居「尚巴志 未来へ一歩踏み出す勇気」を上演。三線や太鼓を交え、地域の歴史とともに、尚巴志が大志を抱いて雄飛したスピリットを伝えている。

Nanjo makes active use of its historical and cultural heritage as a local resource, for example by passing on the spirit of local hero Sho Hashi to children and organising a marathon in his name.

南城市の主なグスク



佐敷城跡

琉球三山統一を果たした尚巴志とその父である思紹の居城。近年の発掘調査では、曲輪や石積み・切岸・土塁を持つことがわかった。14世紀ごろ以降の中国産陶磁器や土器、武器類などが出土している。



知念城跡

沖縄最古の古謡集「おもろさうし」にも謡われ、琉球王国時代から続く聖地巡礼「東御廻り」の拝所のひとつ。アーチ門の切り石積みのミーグスク(新城)と自然石を積んだクワグスク(古城)とよばれる2つの郭からできている。



玉城城跡

標高約180メートルの天然の要塞に築かれた城跡。急な階段を上ると、石灰岩をくり抜いた印象的な円形の城門があり、ここからは久高島や沖縄本島の中南部が一望できる。「東御廻り」の拝所の1つとして参拝者が絶えない。



糸数城跡

高台に中世をしのばせる壮大な城壁が続く。沖縄本島南部最大級のグスクである糸数城跡は、玉城城の西の守り城として築かれたそう。琉球石灰岩を積み上げた城壁、天に向かってそびえ立つようなアザナ(物見台)は壮観。

The ruins of five gusuku (castles) in Nanjo are designated as national historical sites. These are; Shimashi Ozato Castle, Sashiki Castle, Itokazu Castle, Tamagusuku Castle and Chinen Castle.